

てんかんなど

# 見えない障害 理解を深めて

で外見からは分かりにくい「見えない障害」への理解を深めてもうため、初のシンポジウムを開いた。

モモの滝川敬三会長  
らが、まちで無意識の  
うちに女性に触れてし  
まい、痴漢扱いされた  
てんかんと高次脳機能

種村純教授（臨床神経心理学）が解説。てんかんの場合は「発作で体の動きをコントロールできなくなつたため」、高次脳機能障害では「体の半分の感覚

士＝大阪弁護士会、倉敷市出身＝は「てんかんや障害のある人が事件に巻き込まれたときは、法律の専門家に連絡してほしい」と訴え

障害者の2事例を発表した。原因となつた症状について川崎医療福祉大(倉敷市松島)の

を認識できなくなる症

(36) = 倉敷市西阿知町  
西原二は「病気や障害の正しい知識が広がれば、発表された事例のようなトラブルが減るのではないか」と話した。(石井聰)

「見えない障害」への理解

「状のため」とし、いざ  
れも故意ではないと強  
調した。

てんかんや高次脳機能障害のある人と家族を支援するNPO法人「おかやま脳外傷友の会モモ」(倉敷市西坂)は31日、同市笛沖のくらしき健康福祉プラザ



(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。